

国語の授業づくりスタンダード【単元構想の中で】

東濃教育事務所

1. 指導事項と照らし合わせ、単元を通して「付きたい力」を明確にする。

2. 適切な「言語活動」を設定し、その特徴(どんな内容・構成・構造とするか)を分析する。



3-1. 文学的文章における教材分析例

- ・登場人物の行動や心情はどのように書かれているか
- ・気持ちの変化が書かれているところはどこか

3-2. 説明的文章における教材分析例

- ・段落相互の関係はどうなっているか
- ・事実と感想、意見などとの関係はどうなっているか

4-1. 効果的な読み方をどのように指導するか明確にする。
(比べ読み・速読・摘読・多読など)

4-2. 単元の終末において、願う児童生徒の姿を具体的にイメージする。



5. 第3次の言語活動につなげるために、目的的に読み進められる単元構成を考える。

国語の授業づくりスタンダード【1単位時間の授業で】

東濃教育事務所

1. 目的的に読むことができるよう「言語活動」を意識させる。

2. 単元の目標や前時とつないで、必然のある課題を設定する。

3. 繰り返し音読する時間を位置付ける。

4. 常に言葉を根拠にして、考えを書く時間を確保する。

5. ねらいにせまり、新たな視点を導き出すための「深めの発問」を行う。

6. 授業を通してどのような力が身に付いたか、キーワードを使ってまとめを書く時間を設定する。

7. まとめは必ず評価して価値付ける。
(波線を引く、丸を付ける、朱書きを入れるなど)。

8. 習熟を図るための家庭学習につなげる指導を行う。



授業の中で、国語のおもしろさ、言葉を使って伝えることの大切さを繰り返し話す。

辞書は机上に(小学校第3学年以上)。

